

## ふるさと元気学習の考え方とその事例

～ふるさとを元気にするESDをめざす～

平成28年3月

岡山県 西粟倉村立西粟倉小学校

## 1. ふるさと元気学習について

### (1) 学校林について

西栗倉小学校には学校林として保有する山林はない。西栗倉村の最北端に約83ヘクタールの若杉天然林がある。岡山県の三大河川の一つ吉井川に注ぐ、吉野川の源流域をなしている。ブナ、ミズナラ、トチノキなど約200種類の樹木が立ち並ぶ。また、その周辺にはスギやヒノキの人工林がある。これらは西栗倉村の村有林及び私有地である。

現在、西栗倉小学校は西栗倉村及び所有者の許可を得て、上記の森林を学校林として活用している。

### (2) ふるさと元気学習の考え方

現在、学校林を中心に村の豊かな自然環境を活かした”ふるさと元気学習”を、村教育委員会、村役場の強力な支援のもとに展開している。主に生活科、総合的な学習の時間に位置づけ特色ある教育として学校全体で取り組んでいる。以下にその概要を述べる。

#### ① ふるさと元気学習とは？

ふるさと西栗倉の豊かな森林・自然や人とふれあい学び、子どもたちの人間力を高め、ふるさと西栗倉を元気にする学習である。西栗倉小学校の特色ある教育のひとつである。

#### ② 子どもたちの人間力を高める3つの要素

子どもたちが、学んだことを活用し知恵を出しより良く生きようとする力を人間力と呼ぶことにする。子どもたちの人間力を高めるためには、次の3つの要素が重要だと考える。

○ふれあう ふるさとの自然や人と、ふれあい関わり、感性を鍛える。

○学ぶ ふるさとの自然や人から学びつくり出す。

○ともに生きる 自己を見つめ、ふるさとの自然や人とともに、より良く生きる知恵を出す。

#### ③ 学習のゴールは “ふるさとを元気にする”

子どもたちは自然や人とふれあい学んだことを発展させて、ともにより良く生きるための工夫や知恵を出す。そしてそれを具体化する体験をしていく。ふるさとを元気にすることが、この学習のゴールである。

#### ④ ふるさと元気学習の特長

##### A 体験を重視した学習

ふるさとの森や川で遊び、探し、聴き、触り、嗅ぎ、味わう。子ども時代に、五感を通じた体験そのものの楽しさを体で知ることが大切だと考える。また、ふるさとの自然や人から、直接生きる知恵や技を学ぶ体験も重視する。

##### B 体験-表現-交流の三層からなる学びを活用する場

子どもたちは体験を通して得たものを、エンピツからコンピュータまで様々なメディアを駆使して、自分なりの情報をつくりだす。さらに、ホームページを利用して活動の成果を発信したり、ポスターセッション等で地域の人々と交流したりしていく。

ふるさとの自然や人と関わり体験し、自分なりに表現し、それをもとに発信し内外の人々と交流していく。このような体験-表現-発信・交流の活動が相互に関連し合う、子どもたちの学びを総合し活用する場をつくっていく。

## ⑤ 子どもたちの育てたい力

“ふるさと元気学習”は地域に根ざした森林体験活動が核になる学習である。ただ学習の第一義的な目的は、子どもの生きる力・学ぶ力を育てることにある。ここで肝心なのは、学習を通して子どもたちの何を育てたいのか学校としての吟味と、育てたい力を明確に定めることにある。西粟倉小学校では、以下の子どもたちの育てたい力を定め、総合的な学習の時間はもとより全教科・領域でその育成に努めている。

表 西粟倉小学校で定める 子どもたちの育てたい力（生きる力・学ぶ力）

1 ふれあい 関わる力	2 自ら考え学び つくり出す力	3 自己を見つめ ともにより良く生きる力
<p>①五感で感じる力 体験を通して五感を鍛え、ふしぎを感じる心を育てる。</p> <p>②ふれあいよさを感じる力 身近な自然や人と積極的にふれあい、その良さを感じる。</p> <p>③関わり交流する力・コミュニケーション力 身近な自然や人と積極的に関わり、誠意を持って交流しコミュニケーションをはかろうとする。</p> <p>④つながりを重視する態度 自然・人・社会と自分との関連に関心を持ち、それらを尊重し大切にしようとする。</p>	<p>①自ら探究する力 ア 課題を設定する力 目的を持ち、実現のための課題や見通しを明らかにする。 イ 情報を収集する力 目的に沿った情報を、必要な手段を活用して収集する。 ウ 情報を分析する力 目的に沿って情報を分類まとめる。集めた情報から価値あるものを考え見つける。 エ 表現・発信する力 相手や目的に応じて、色々な手法でわかりやすくまとめ表現・発信する。</p> <p>②未来像を予測して計画を立てる力 未来像を予想・予測し他者と共有しながらものごとを計画しようとする。</p> <p>③多面的・総合的に考える力 自然・人・社会などの関連やしぐみを理解し、多面的・総合的に考える。</p> <p>④創意工夫してつくり出す力 創意工夫や新たな考えを取り入れ、より良いものをつくり出そうとする。</p>	<p>①自己を見つめる力 学習を振り返り自らの生活や生き方を考え高める。</p> <p>②問い直す力（批判する力） 公平な判断に基づいて本質を見抜き、ものごとを建設的、協動的、代替的に考え判断する。</p> <p>③協力・協同し高め合う力 互いに高め合うという意識を持ち協力・協同して活動する。</p> <p>④進んで参加する態度 自分の発言や行動に責任をもち、ものごとに自主的・主体的に参加しようとする。</p>

## 2. 活動状況

今日の学校は“学力向上”を抜きに主要な教育をすすめることはできない。地域でのこれまで意義のある体験活動であっても、単に体験だけの学習で存続は難しい。学力や学びに関してどういった考えをもって、体験活動に取り組んでいるかが問われているからだ。独自のカリキュラムを持つとすれば尚更である。むしろ、地域での体験活動を核にする学習が、子どもたちの育てたい力（生きる力・学ぶ力）を高めるための重要な要素であるという、学校としての戦略を立てることが必要とされる。それが地域での意義のある体験活動を守ることにもつながると思われる。

体験活動は、ともすればそれ自体が学習の目的になりがちである。そうなると子どもたちの学ぶ意識も活動が終われば途切れてしまう。“ふるさと元気学習”では、ふるさとの自然や人と関わる地域での体験活動を出発点にして、自分なりに表現し、それをもとに発信し内外の人々と交流していく活動を展開する。このような学習をダイナミックに連動させるために、体験-表現-発信・交流の活動が相互に関連し合う学びの場を設定する。

そして子どもの育てたい力をつけるために、低・中・高学年ごとにテーマを設定して具体的なカリキュラムを構成していく。

- 低学年テーマ “ふるさとたいけん” 西栗倉の自然や人とふれあい、感性を鍛えふるさとの良さを体験する
- 中学年テーマ “ふるさとのおくりもの” 西栗倉の自然から人から学び発信する
- 高学年テーマ “ふるさとづくり” 西栗倉の自然や人とともにより良く生きる知恵を出す

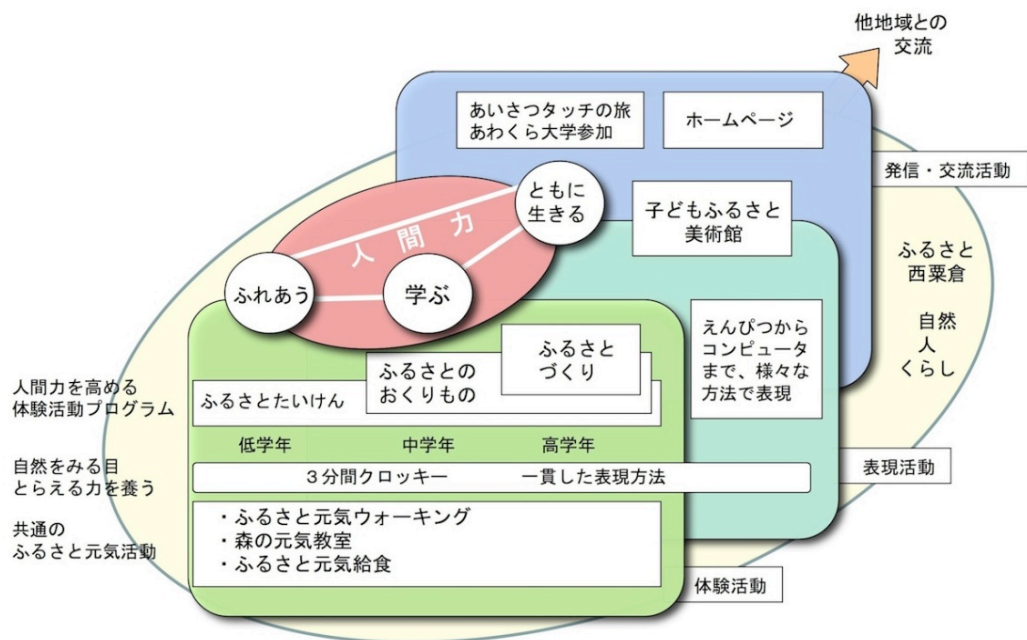


図 ふるさと元気学習の全体構造

(1) 昨年度の(4月～3月)の活動状況

上記の考え方に基づいて昨年度は森林を活用した活動として以下を実施した。

活動は、主に生活科、及び総合的な学習の時間における単元として実施した。従って数ヶ月から年間を通して実施したものまで様々である。備考欄はその単元名である。数字付きは次項で詳しく説明する。

年月日	活動種目	教科・科目	参加者数		備考
			学年	人員	
26.5.9	動植物観察	学校行事	全学年	70人	⑤ ふるさと元気ウォーキング
26.5.23	森林体験活動	総合的な学習	4学年	12人	森の元気教室
26.4～27.2	表現活動	総合的な学習	3学年	14人	ふるさと元気新聞
26.4～27.2	動植物観察	総合的な学習	4学年	12人	② 水でつながる学習
26.5～27.1	森林体験学習	総合的な学習	5学年	8人	③ 百年の森林公園づくり
26.6.20	林業体験	社会科	5,6 学年	19人	大型機械間伐見学
26.9～26.11	感性表現	生活科	2学年	12人	① 5つのたんけんたい
26.9～26.12	林業体験	総合的な学習	6学年	11人	④ ふるさと元気グッズづくり
26.5～27.3	表現活動	総合的な学習	5,6 学年	19人	森のおくりものネット

(2) 具体的な活動内容について